

# 一般財団法人東海テレビ国際基金 2025年度事業報告

(2025年4月1日～2026年3月31日)

国際理解の促進と国際交流の推進のため、より有意義な事業を効率的に実施して目的を達成するよう努めた。

## 1. 自主企画事業 (定款 第4条第1項第3号)

### 「ITCHI指差しコミュニケーションシート」の作成・配布

上期には、外国人居住者のための「多言語指差しシート」を作成し、配布した。

「多言語指差しシート」は、表記されている会話や記号を指差すことで、日本人と外国人が簡単にコミュニケーションを図ることができるツール。言語は、ポルトガル語、英語、韓国語の3か国語で作成。

内容は、名古屋の名所・旧跡・観光地などを案内する「文化・観光編」と防災対策として非常時の行動などを解説した「災害・非常時編」の2種類とした。6パターンのシートはダウンロード式で、各シートを取り込むQRコードを表示したクリアファイルを1万枚作成。配布先は、助成先を含めた国際交流団体や高校・大学、日本語学校などの他、留学生や在留外国人向けの施設や役所など。

また作成にあたり、外国籍の学生も関わりながら作成を行った。シートを通じて地域における様々なコミュニケーションをサポートし、国際交流が深まることを目指した。

(2025年上期実施、決算176万円。)

### 「多文化交流スポーツイベント」の実施

12月には、ユニバーサルスポーツの「ボッチャ」を通じての多文化交流プログラムを2024年度に続き、名古屋市東区の「AOI CELESTIE (アオイ・セレスティ) ボッチャコート」で開催した。このプログラムは、年齢・国籍・性別・障がいの有無・体力の差などに関係なく誰もが楽しめるユニバーサルスポーツの「ボッチャ」を通じて各国の参加者の相互理解を深めることが目的で行われた。世界で活躍するパラアスリートや国際大会を支えるスポーツボランティアのお話を伺い、スポーツを通じた国際交流の楽しさを学びながら選手とボッチャ体験の交流を実施した。参加者は、パキスタン、スリランカ、オランダ、ドイツ、エクアドル、ハンガリー、フランス、タイ、セルビア、フィリピン、イタリア、アメリカおよび日本など13か国の34名の高校生。

(2025年12月22日実施、決算64万3,500円。)

決算合計 240万3,500円

## 2. 助成事業（定款 第4条第1項第2号）

### (1) 「鈴鹿国際交流フェスタ2025 わいわい春まつり」への助成

鈴鹿国際交流協会主催。各国の舞踊やダンス、キッチンカーによる外国料理、民芸品の販売などを通じて他国への関心を広げることで、日本人と在住外国人の交流を深め、国際協力、多文化共生を推進。約1,500人が参加で、日本人と外国人が半数ずつ。出身国は、ブラジル、フィリピン、スリランカ、ペルー、中国、韓国など約10か国。

（5月19日実施、決算10万円）

### (2) 「第17回TIRA国際スポーツ交流会」への助成

豊明国際交流協会主催。キンボール(カナダ発祥、巨大で軽いアドバルーンのようなボールを床に落とさないようチームで協力し合う競技)や卓球などの軽スポーツを通じて、豊明市民と外国人市民との交流を図り、より良い豊明の街づくりを目指した。91人(うち外国人22人)が参加。出身は、ベトナム、インドネシア、中国、ガーナ、ネパール、スリランカなど6か国。

（5月25日実施、決算4万円）

### (3) 「希望のキャンパス～子供たちが描く環境の未来」への助成

国際児童画協会主催。環境問題の解決と平和をテーマに、世界の子供たちが描いた作品展を通じて、子供たちの国際交流の促進と環境意識の向上を目指した。スウェーデン、セルビア、ジンバブエ、カナダ、トルコ、エジプト、中国など20か国以上、100点以上の作品を展示。

（6月7日～11日実施、決算3万円）

### (4) 「世界の子どもの本展」への助成

至学館大学附属図書館主催。「世界の子どもの本展」は、IBBY(国際児童図書評議会)が「子どもの本を通して国際理解をすすめる」ことを目的に世界中で開催された。今回の「世界の子どもの本展」は、地域社会に至学館大学附属図書館の独自性を伝えるとともに、地域住民の交流の場を提供した。また、国際的な知見から各分野の研究に取り組む研究者の情報提供、情報発信の場となるよう努めた。

日本を含めて、フランス、インド、スウェーデン、ペルー、韓国、中国、アメリカなど世界59か国、180冊以上の絵本を2週間展示。

（7月14日～25日実施、決算10万円）

### (5) 「産業革命と日本の近代化の歴史を学ぶ研修」への助成

NPO「知多から世界へ」主催。知多地域の公立中学1年生の22人が、英国シェールズベリーに滞在し、産業革命と日本の近代化の歴史を学んだ。ホームステイによる生活体験や語学研修、地元高校生との交流を行うことで、国際理解や国際感覚を高めた。英語圏およびドイツ、フランス、イタリア、スペインなど英語圏以外の多く

の外国人とも交流することができた。

(7月26日～8月11日実施、決算13万円)

**(6) 「国際交流・国際協力・NGO入門講座開催」への助成**

運営母体は、名古屋NGOセンター。世界で起こっている様々な課題や問題をワークショップ形式で話し合うことで、参加者に自らの問題として捉えてもらい、持続可能な社会を作る担い手を育成した。年4回のべ45人が参加。

(2025年8月2日～2026年1月18日に計4回実施、決算7万5000円)

**(7) 「2025年度CISV国際交流プログラム ユースミーティング日本大会」への助成**

運営母体は、CISV日本協会東海支部。世界8か国(中国・モンゴル・タイ、アメリカ・ドイツ・ノルウェー・チェコ・日本)から集まった12、13歳の青少年やリーダー45人が1週間のキャンプ生活を体験した。学習やレクリエーションを通じて、人種・国籍を超えた友情を育み、国際平和の理解を深めた。

(8月3日～10日実施、決算10万円)

**(8) 「第30回国際交流フェスティバル」への助成**

江南市国際交流協会主催。外国人の日本語によるスピーチ大会や、フラダンス・三味線、外国の紙芝居や民族衣装体験などを通じて、市民と在住外国人が交流を深めた。ベトナム、ネパール、ペルー、インドネシアなど8か国の在住外国人が多く参加した。

(8月17日実施、決算10万円)

**(9) 「It's ME Camp 2025」への助成**

主催は、DiVE. tv。外国籍の若者及び日本人が、文化や自然への体験を通して自己を見つめ、日本に対する理解を高めることを目的とし、国際交流によって視野が広がり、個性を生かした自由な発想が促されることを目指した。今年、12か国から65人が参加、出身国は、日本以外にブラジル、フィリピン、ベトナム、中国、インドネシア、インド、ペルー、ネパール、ナミビア、ミャンマー、ウクライナなど12か国ほど。

(9月13日～14日実施、決算10万円)

**(10) 「あいち国際女性映画祭2025」への助成**

国内唯一の国際的な映画祭。今年で30回目を迎えた。世界で活躍する女性監督等を招待し、様々なテーマの作品を上映するとともに、トークイベントやシンポジウムを通じ、女性の社会進出の支援や国際交流の推進を図った。今年の上映本数は42本で海外作品が28本。映画祭来場者数の総計は15,269人。

(9月11日～15日実施、決算15万円)

(11) 「国際芸術祭あいち2025」への助成

3年に1度の開催。国内外の気鋭アーティストの現代美術を発信することで、世界の芸術の発展に貢献。また、地域の文化芸術活動を活発化させ、地域の魅力の向上を図った。日本人を含む約50人の作家による最先端の現在美術を展示、作家の主な出身国は、アメリカ、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、インドネシア、オーストラリア、ガーナ、韓国、ケニア、グアテマラ、ペルー、メキシコ、レバノンなど。3年毎の開催で、今回の集客数はのべ52万4000人ほど。

(9月13日～11月30日実施、決算20万円)

(12) 「世界を遊ぼう！フレンドシップフェスティバル」への助成

一宮市国際交流協会主催。イタリア、ニュージーランド、中国、ベトナム、ウズベキスタンなど5か国の在住外国人が参加。ステージや異文化を体験できるワンコインワークショップ、世界の遊び体験などを通じて、広く市民の国際交流・国際理解の推進と啓発を図った。来場者は614人。

(9月23日実施、決算15万円)

(13) 「第31回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム」への助成

三重大学主催。中国、タイ、インドネシアの留学生および三重大学の学生、教職員約100人が交流することによって、国際的な視野を広げ、異文化理解を深めた。また、英語による論文発表を通じて、学生の英語力および学術的なコミュニケーション能力の向上を図った。

(9月22日～25日に実施、決算10万円)

(14) 「伊賀市国際交流フェスタ2025」への助成

伊賀市国際交流協会主催。外国の食、物品の販売や外国と日本の音楽、舞踊のステージを通じて、伊賀市在住の外国人と地域住民との国際交流や多文化共生の理解を深めた。約1,500人が参加。このうち外国人が約4割、600人で、出身国は、ブラジル、ペルー、ベトナム、フィリピン、中国、ミャンマーなど10か国以上。

(10月5日実施 決算15万円)

(15) 「シスターシティフェスティバル」への助成

名古屋市と名古屋姉妹友好都市協会の共催。名古屋の姉妹友好6都市(ロサンゼルス市・メキシコ市・南京市・シドニー市・トリノ市・ランス市)の歌やダンスをステージで披露するとともに食文化、観光などをブースで紹介することにより、姉妹友好都市の魅力を感じ、国際理解を深めてもらった。参加者は約1500人。

(10月18日～19日実施、決算20万円)

(16) 「ワールド・コロボ・フェスタ2025」への助成

愛知国際交流協会ほかの主催。市民、NGO、NPO、企業、行政等の協力による各国の歌や踊りの披露や楽器演奏のパフォーマンス、多文化共生のトークイベントなどを通じて、中部地域の国際交流、国際協力、多文化共生の活動を広げ、「学び、考え、行動する場」をつくりあげた。2025年度の参加者は約62,000人で、このうち外国人は約12,000人。外国人の出身国は、フィリピン、ベトナム、インドネシア、フランス、ブラジルなど約10か国。

(10月25日～26日実施、決算20万円)

(17) 「第43回全日本中国語スピーチコンテスト愛知県大会」への助成

日本人23人が参加する中国語スピーチコンテストで、今回は愛知県と江蘇省の友好提携45周年記念大会。中国語の普及や中国語学習者の学習意欲の向上に貢献し、日中友好の増進と国際理解を深めることを目的とした。初級者対象の朗読部門と上級者対象のスピーチ部門があり、優秀者が全国大会出場に推薦された。

(11月1日実施、決算7万5,000円)

(18) 「とよはしインターナショナルフェスティバル2025」への助成

豊橋市国際交流協会ほかの主催。各国の音楽演奏やダンス、日本語スピーチコンテスト、国際交流団体の紹介パネル展などを通じて、市民と外国人が一堂に集い、国際交流、国際協力の在り方を考えた。参加者は4,500人で外国人が約2,000人。出身は、ブラジル、フィリピン、ベトナム、インドネシア、ペルーなど約18か国。

(11月9日実施、決算10万円)

(19) 「外国にルーツがある子供達と日本人青少年の交流を目指したコミュニケーション・ワークショップ」への助成

多文化子どもエデュニホ☆nicoの主催。岐阜県内在住の外国人の子供たちがワークショップを通じて日本人の高校生・大学生および留学生と交流し、自分の地域を理解することを目指した。また日本人にとっては、異文化理解を体験する機会となった。参加人数は30人ほどで、9人が外国籍(ベトナム・フィリピン・中国)。

(12月7日実施、決算8万円)

(20) 「岐阜ロシア文化サロン」への助成

ロシアから来日したモスク音楽院教授でピアニストのパーヴェル・ネルシアンとのピアノコンサートを開催。ロシア文化やロシア音楽に親しんでもらった。

当日は100名以上が参加(ロシア人含む)。

(11月24日実施、決算10万円)

**(21) 「ワールドフェスティバル2025」への助成**

豊川市国際交流協会主催。世界7ヶ国のグルメコーナーの出店や各国の演奏、ダンスやパフォーマンスなどを通じて、地域住民と外国人との交流を深め、相互理解と国際親善の推進を図った。参加者は約2,400人(うち外国人が約700人)。出身国は、ブラジル、ベトナム、フィリピンを中心に多くの国の方が参加。

(12月7日実施、決算10万円)

**(22) 「市制20周年記念事業 いせ国際交流デー」への助成**

伊勢市国際交流協会主催。各国のブース出展、舞台やイベントの披露、料理の提供、在住外国人を対象としたスピーチコンテストなどを通じて、市民と外国人との国際交流を促進し、市民の国際理解を深めた。参加者は370人で外国人は約60人。出身国は、ベトナム、フィリピン、インドネシア、ミャンマーなど約7か国。

(2026年1月～2月実施予定、決算8万円)

**(23) 「小牧市国際交流ふれあいフェスタ」への助成**

小牧市国際交流協会主催。各国の舞踊等の舞台発表やキッチンカーによる各国料理、着物の試着などの多種多様なプログラムを通じて、日本人と外国人との国際交流の推進を図った。参加者は約500人で外国人は約100人。出身国は、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ペルーなど約10か国。

(2026年1月18日実施、決算20万円)

**(24) 「国際交流デー」への助成**

大府市国際交流協会主催。外国人によるステージイベントや多国籍料理を通じて、市内在住の外国人と市民の交流機会を作り、市民の国際理解を深めた。参加者は約550人で、外国人が約80人。出身国は、ベトナム、インドネシア、フィリピン、中国、韓国、パキスタンなど10か国。

(2026年1月18日実施、決算8万円)

**(25) 「くーてトーク2026」への助成**

長久手市国際交流協会主催。東海地方在住の外国人と日本人が、故郷・習慣・趣味などをテーマにスピーチ・歌・踊りなどを発表し、多文化紹介を行うことで国際交流、多文化共生の意識を高めた。参加者(発表者)は、応募者の中から審査等で日本語部門・日本語以外部門で計22組を選出。参加者の出身国は、インド、インドネシア、ウクライナ、スリランカ、ネパール、韓国、中国、日本の8か国。

(2026年1月31日実施、決算5万円)

(26) 「第16回東三河日本語スピーチコンテスト」への助成

東三河5市(豊橋・豊川・蒲郡・新城・田原)の国際交流協会合同の実行委員会主催。5市から選出された在住外国人23名が参加した日本語スピーチコンテスト。地域の多文化共生の理解を深め、国際交流の推進を図った。  
(2026年2月8日実施、決算10万円)

(27) 「和菓子と茶道で深める国際交流体験」への助成

四日市国際交流センター主催。日本の伝統文化である和菓子作りと茶道体験を通じて、外国人に日本の美意識やおもてなしの心を感じてもらい、国際交流の活性化に貢献した。参加者は138人で、外国人の出身国は、ベトナム、インドネシア、タイ、ネパール、中国、ペルー、韓国、台湾、ミャンマーなど約17か国。  
(12月13日実施、決算8万円)

(28) 「きよす国際交流まつり」への助成

清須市国際交流協会主催。県内在住外国人および留学生と市民が参加。各国の演舞や日本の津軽三味線の演奏、各国の遊びや日本文化の紹介などを通じて交流を図り、国際交流活動の進展を目指した。参加者は223人(うち外国人が約40人)。外国人の出身はインドネシア、ネパール、スペインなど11か国。  
(2026年2月1日実施、決算10万円)

助成事業費 計 307万円

事業費 合計 547万3,500円

### 3. 役員会等に関する事項

#### ① 理事会

第33回 2025年5月20日

##### 議事事項

2024年度事業報告案の件	可決
2024年度収支決算案の件	可決
2024年度公益目的支出計画実施報告書案の件	可決
第16回評議員会開催の件 6月19日開催について	可決

第34回 2026年2月13日 書面決議

##### 議事事項

代表理事・業務執行理事選任の件	可決
-----------------	----

第35回 2026年3月27日

##### 議事事項

2026年度事業計画案の件	可決
2026年度収支予算案の件	可決

#### ② 評議員会

第16回 2025年6月19日

##### 議事事項

2024年度事業報告案の件	可決
2024年度収支決算案の件	可決
2024年度公益目的支出計画実施報告書案の件	可決
役員選任の件	可決
評議員改選の件	可決

第17回 2025年7月7日 書面決議

##### 議事事項

理事選任の件	可決
評議員選任の件	可決

第18回 2026年1月19日 書面決議

##### 議事事項

理事選任の件	可決
評議員選任の件	可決

## 4. 役員に関する事項

2025年6月

理事の選任

石田 巳賀(本名:杉田実加)

(退任 石田 秀翠(本名:石田暢夫))

評議員の選任

安藤 隆司(重任)、神田 真秋(重任)、田中 敬一(重任)、

中尾 昭公(重任)、水野 久詞(重任)

2025年7月

理事の選任

林 泰敬

(退任 祖父江 茂樹)

評議員の選任

深川 辰巳

(退任 水野 久詞)

業務執行理事の選任

林 泰敬

2026年1月

理事の選任

深川 辰巳

(退任 小島 浩資)

評議員の選任

三輪 亜貴之

(退任 深川 辰巳)

2026年2月

代表理事の選任

林 泰敬

業務執行理事の選任

深川 辰巳

以 上